

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな 氏名 学位の種類 学位記番号 学位授与年月日 学位論文題目 審査委員	ひこ きよみ 彦 聖美 博士（看護学） 博第6号 平成22年 3月13日 糖尿病熟練看護師の判断プロセスの可視化に基づく糖尿病患者の 疾病受容を支援するアセスメントツール試案の作成 主査 石川県立看護大学 教授 丸岡直子 副査 石川県立看護大学 教授 大木秀一 副査 石川県立看護大学 教授 佐々木 順子
---	---

本論文は、糖尿病熟練看護師が糖尿病疾病受容を支援する際の判断プロセスを言語化し、糖尿病患者の疾病受容過程にある「揺らぎ」や「もがき」を看護師が予測的に捉えてケアつなげるアセスメントツール試案を作成し、その有用性を検討したものである。

本論文は、疾病受容過程における悲嘆や防衛的退行といった慢性病の特徴として明らかにされている「揺らぎ」や「もがき」を、糖尿病患者の疾病受容や行動変容につながる意味ある患者の反応と捉える根拠を緒言で明確にした上で、アセスメントツール試案を Step 1 から Step 4 の4段階のプロセスを経て作成したことを論じている。

Step 1 では、文献検討により看護師のアセスメントにおける判断プロセス構造を第一段階「情報収集」、第二段階「分析・統合・判断」の二段階構造をもつ過程であることを明確にしている。さらに、看護師の強化すべきアセスメント要素として「予測される患者パターンから推論を持つ」と「看護師は自分の推論を患者に確認する」を抽出している。

Step 2 では、糖尿病熟練看護師 19 名に対するフォーカス・グループ・インタビューから、糖尿病熟練看護師の実践しているケア、糖尿病患者に予測されるパターンとそのパターンを察知するためのアセスメント項目を導き出し、アセスメントツール試案作成の主要な要素を明確にしている。

Step 3 では、Step 1 および Step 2 で明確にした看護師の判断プロセスの構造、看護師が強化すべきアセスメントの要素、糖尿病患者に予測されるパターンとアセスメント項目を基に、「対象把握シート」と「情報の統合・患者と看護師のズレ確認・看護介入の方向性シート」の2シートから構成したアセスメントツール試案を作成している。

Step 4 では、アセスメントツール試案使用に関する質問紙調査を糖尿病看護に携わる看護師 29 名に実施し、その結果からアセスメントツール試案の実用化への課題と発展性を検討している。

本論文は熟練糖尿病看護師の判断プロセスを言語化し、アセスメントツール開発に向けたプロセスを詳細に提示しており、今後の看護研究および看護実践に寄与すると考える。

以上の結果、本論文は博士（看護学）を授与することに値するものであり、論文審査ならびに最終試験に合格したと判断した。